

助け合い「感謝」

札幌民青フードバンク

コロナ禍 食料支援

「遠慮なく必要な物をお持ちください。コロナで困っているのはみなさんの責任ではありません。支え合う社会にしましょう」。

札幌市中央区の日本民主青年同盟地域班は15

日、トイレットペーパーやマスクなど日用品や米、野菜、果物、食料品をそろえ、青年や学生の食料を支援するフードバンクを行いました。

午前と午後約40人が訪れ「ありがたい」「コンビニみたいでびっくり。助かります」と食料品を詰めたビニール袋を両手に笑顔が広がりました。

「バイトを外されて蓄えが減る一方です。ありがたいです」（専門学校生）、「人を信じられない世の中で貴重な取り組みですね。助け合いの思いに感謝します」（大学4年の女性）などの声がありました。

保育の専門学校に通う19歳と20歳の女子学生は「思った以上の品ぞろえ」と会場内を行ったり来たり。「自炊しているので、お米と

調味料をもらったことを遠軽町の両親に知らせます」とうれしそうに語りました。

路上生活という62歳男性が来場。「食うのにやっとの毎日。大助かりだ」とほつり。

民青道委員会の宮内史織委員長が「新型コロナウイルスに関する実態アンケート」を訴えると、学生たちが快く応え、会話が弾みました。



野菜を手にする学生たち＝15日、札幌市中央区